

# 島根大学鐵道研究会 月報(仮)

第 901 号 2023 年 3 月発行

編集：ながおかまさゆき

## 特集：スーパーやくも復活

### 1. やくも号の歩み

1972 年 3 月、岡山まで開通した山陽新幹線に接続する特急として特急やくも号が岡山～出雲市・益田で運転を開始した。当初はキハ 181 系気動車を用い 4 往復での運転であったが翌年には 6 往復へと増発され、1975 年には気動車特急として初めてエル特急に指定された。

1982 年 7 月、かねてより計画されていた伯備線と山陰本線の電化工事が完成し、やくも号は電車化されることとなった。知井宮駅(当時)の西側、出雲市東神西町内には専用の車両基地が建設され、9 両編成 9 本計 81 両もの 381 系電車が投入された。

381 系電車は世界初の振り子式電車であり、その高い曲線通過性能を活かして岡山～出雲市間の所要時間は気動車時代よりも 1 時間ほど短縮させることに成功した。

電車での運転開始と同時に増発も行われ、1988 年には瀬戸大橋線經由高松行きの臨時列車マリンやくもの運転も行われた。

そしてついに 1994 年 12 月、パノラマグリーン車を連結したスーパーやくも号が運転を開始した。

### 2. スーパーやくもの運転開始

1994 年 12 月 3 日、やくも号の速達便としてスーパーやくもが運転を開始した。シートピッチを拡大した 6 両編成 3 本、計 18 両の専用車が用意され、うち 2 本にはパノラマ型グリーン車クロ 380 形が連結された。クロ 380 形は中間車であるサロ 381 形を先頭車に改造したもので、展望に優れた大きな窓が特徴である。また、座



電化開業を知らせるポスター



特急やくも 50 周年を記念する入場券

席こそ4列のままであったものの、座席のかさ上げが行われて空調ダクトにより窓際座席足元が狭まるという問題を解消している。一方でパノラマグリーン車が連結されない予備編成1本はそのまま残置された。

1998年にはスーパーやくもの増発が行われ、新たに6両編成2本がスーパーやくも用に改造された。新たに改造された車両はパノラマグリーン車こそないものの、座席が3列化され、より一層ゆったりとした内装になった。また、同時期に通常のやくも号に使われる車両も3列グリーン車に改造された。

### 3. スーパーやくもの廃止とゆったりやくもの登場

2006年春、この年のダイヤ改正にてスーパーやくものが廃止となり、通常のやくも号に一本化されることとなった。

この時期から専用車は通常のやくも号の塗色の車両と共通運用となった。また、混色編成も多くみられるようになった。

同年冬、やくも号に使われる381系を対象とした塗装変更及び車内設備のリニューアルが実施されることが発表された。2007年3月にはクハ381-140を先頭車とするサブ編成4両がリニューアルを受け、翌月にゆったりやくもの第一号としてデビューした。その後も次々とリニューアルが施工された。スーパーやくも色の車両で一番初めにゆったりやくもとなった車両はクロ380-6を先頭とするパノラマ編成4両である。その後、2008年10月24日、最後まで残ったスーパーやくも塗装のサロ381-31が後藤総合車両所に回送され、これを以ってスーパーやくも色の381系は消滅

した。2011年7月にはクモハ381-9を先頭とする編成がリニューアルを受けて出場し、すべてのやくも号がゆったりやくもで運転されることとなった。



車両のリニューアルを知らせる JR のニュースリリース



ゆったりやくもを PR するマスコットキャラクター

#### 4. 国鉄色およびスーパーやくも色の復活

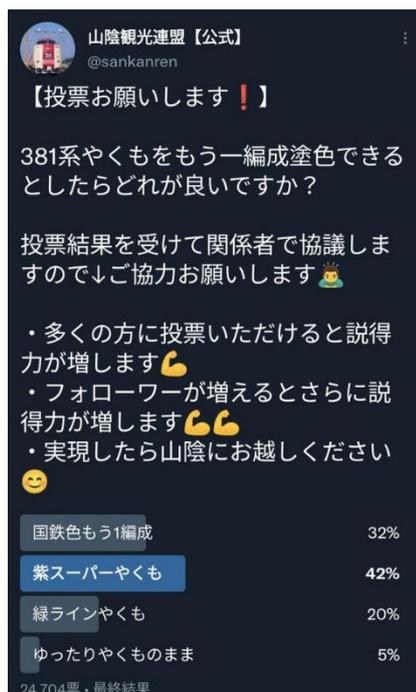
2022年2月16日、2024年春以降の新型車両273系の導入が発表された。また、同時に現行車両1編成6両を国鉄色に復元して運用することも発表された。同年3月に運行を開始した国鉄色編成は鉄道ファンをはじめとした多くの人々から人気を博し、たちまち沿線には多くの鉄道ファンが押し寄せた。

この活況ぶりからJRと沿線自治体、観光業の団体等でつくる山陰観光連盟はTwitterでアンケートを実施、いちばん人気を集めたスーパーやくも塗装が一番人気を集めた。これをもとに2023年2月9日、リバイバル企画第2弾としてスーパーやくも塗装を復活させることが発表された。

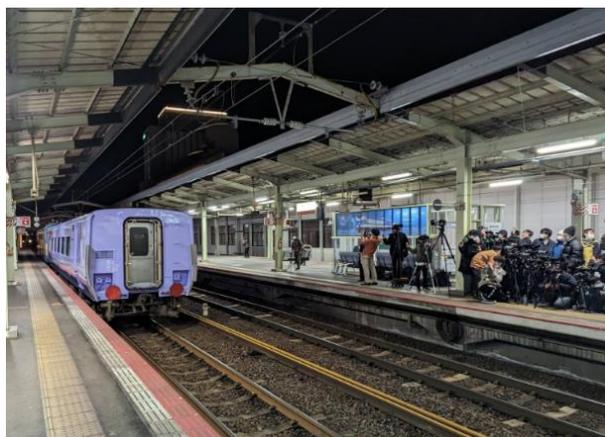
#### 5. スーパーやくも塗装運転開始

2023年1月31日、後藤総合車両所で検査を受け、クロ380形を除く3両にスーパーやくも塗装を施した編成が試運転を行い、出雲支所へと回送された。これを一目見ようと多くの鉄道ファンが沿線へ撮影に繰り出した。その後、2月15日にはクロ380-7がスーパーやくも塗装に復元され、クモヤ145形けん引により出雲支所へ回送された。こちらも注目を浴び、松江駅には多くの鉄道ファンが押しかけた。

そしてついに2月17日より4両編成にて営業運転を開始した。20日からはゆったりやくも2両を挟んだ混色編成となり、3月16日からは6両全車がスーパーやくも塗装として走る予定である。



山陰観光連盟が実施したアンケート



スーパーやくも塗装を見ようと松江駅へ押し掛ける鉄道ファン



運行を開始したスーパーやくも塗装の車両

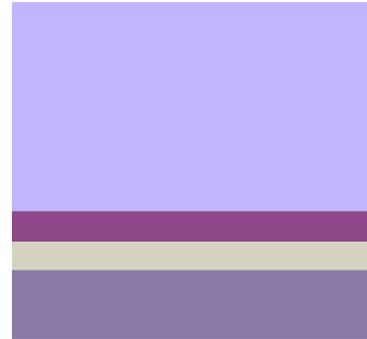
## 6. スーパーやくもの塗装

スーパーやくもは4色で塗装がなされており、右図はその模式図である。

使用されている色は上から順に、

- ・DIC-N902 (マンセル値：2.3 P 7.5/5.8)
- ・DIC-N920 (マンセル値：9.0 P 4.1/10.3)
- ・DIC-546 1/2 (マンセル値：9.9 Y 8.4/1.2)
- ・DIC-N998 (マンセル値：2.3 P 5.3/5.8)

となる。



この塗色は出雲地区の自然の光景をイメージしたもので、ベースのラベンダーは山の深緑をはるか遠くから眺めた際の薄紫をモチーフにしている。また、下側の三本のラインは下から、「棟」「アイボリーホワイト」「杜若」でやさしさとスピード感を表現したものとなっている。

## 7. 今後のやくも号

現在の381系電車は製造後からいずれも40年以上が経過しており、老朽化や陳腐化が進んでいる。そこで後継車両として273系電車の投入が発表された。同車は車上型の制御付自然振り子装置を搭載しており、高い曲線通過性能をもちながら乗り心地の改善を目指している。

(株)イチバンセンと近畿車輛(株)によってデザインされた同車両は現行の普通車、グリーン車に加えてグループ向けのコンパートメント席、大型荷物スペースなどが設置され、現行の車両より快適に過ごせる工夫が数多く施されている。

2024年春より同車は順次導入され、営業運転を開始する予定である。

JR西日本 NEWS RELEASE



特急「やくも」に投入する新型車両のデザインについて  
～沿線の風景に響き自然に映える車体、山陰の夜が空のようにくつろげる座り心地のある車両～

2022年10月20日  
西日本旅客鉄道株式会社

JR西日本グループでは「JR西日本グループ中期経営計画2022」に掲げる、地域共生の推進に向けて新幹線を基軸とした広域鉄道ネットワークの厚み上げの取り組みを進めています。この度、2024年春以降に山陰・山陽エリアを結ぶ特急「やくも」に投入予定の新型車両（273系特色形高速電車）の車両デザインが決定しましたのでお知らせします。

### 1. デザインコンセプト

「沿線の風景に響き自然に映える車体、山陰の夜が空のようにくつろげる座り心地のある車両」



### 2. ロゴ・シンボルマーク



新型車両のデザインに関するニュースリリース

## 8. まとめ

スーパーやくも塗装の車両を含め、3種類の塗装がみられる特急やくも号。381系での運転開始から40周年を迎え後継車両の登場も近づいている。そんな中で短い間ではあるが、全国から大きな注目を集めている特急やくも号の今後の活躍に期待したい。



## 先月の活動報告

### ・シンポジウムの開催

2月26日、島根大学医学部病院において、医療と交通に関するシンポジウムを開催した。「ナショナルミニマム不在の医療・交通 - これからの生活保障に向けて -」がテーマであり、地域医療や交通政策などの現場で活躍されている講師の方々をお招きして、現状やそれに関する打開策などを様々な視点から語っていただいた。



**ナショナルミニマム不在の医療・交通**  
これからの生活保障に向けて

なぜ、へき地に医師が足りないのか  
なぜ、生活の足がボランティア頼みなのか  
自己犠牲の精神を乗り越えるために

■ 国民の生活を支える上で重要な役割を果たす医療と公共交通は、同じ病理を共有しています。  
■ いずれもプライベートセクターがその主体であり、移住や自家用車といった代替手段があります。  
■ これら背景から、ナショナルミニマム水準に国民合意が存在せず、へき地医療や過疎地交通は地方自治体によって支えられています。  
■ 本シンポジウムでは、改めて供給差額を規定される郵便、通信、水道等他の生活基盤と異なる「難しさ」、両分野を比較しながら浮き彫りにするとともに、今後の展望について考えます。

参加費無料

令和5年 **2月26日** (受付開始12:00) **13:00▶17:30**

会場 島根大学医学部附属病院ギャラクシー  
島根県出雲市塩冶町89-1 みらい棟4F

参加方法  
【お問い合わせ先】  
日本プライマリケア連合学会 <申込フォームはこちら>  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
https://noma.jp/308P-JMF/Work/Doku

オンラインで同時配信  
当日はzoomでのオンライン配信も行います。  
申込フォームをご確認ください。

**ナショナルミニマム不在の医療・交通** 入場無料  
シンポジウムプログラム

12:00▶受付開始  
13:00▶開演  
13:00▶基調講演①  
離島における地域医療の提供とナショナルミニマム保障  
島根大学文学部教授  
関 耕平 氏

13:40▶基調講演②  
過疎地交通の現状と今後  
株式会社バイクルード 代表取締役  
森山 昌幸 氏

14:00▶基調講演③  
地域医療を支える島根県の取組と今後  
島根県健康福祉部 健康政策課長  
谷口 栄作 氏

14:40▶基調講演④  
救急空白  
『生命権』保障における法・政策の空白領域として  
一般社団法人グローバル交通推進機構 理事  
田中 敏 氏

15:50▶基調講演⑤  
隔れるナショナルミニマム - 公共交通分野を中心に -  
東京大学大学院総合文化研究科応用社会学専攻  
東京大学大学院人間文化研究学専攻 社会学コース 准教授  
山本 卓登 氏

16:40▶基調講演⑥  
生存権保障の一手段としての公共交通 - 政策のあり方を 実務現場から考える -  
一般社団法人計量計画研究所 研究員  
何 功 氏

17:00▶意見交換  
17:30▶閉会

会場案内  
島根大学医学部附属病院  
みらい棟4Fギャラクシー

【アクセス方法】  
公共交通機関利用  
島根県庁前駅(徒歩15分)  
島根県庁前駅西口(徒歩15分)  
島根県庁前駅南口(徒歩15分)  
島根県庁前駅北口(徒歩15分)  
島根県庁前駅東口(徒歩15分)  
島根県庁前駅西口(徒歩15分)  
島根県庁前駅南口(徒歩15分)  
島根県庁前駅北口(徒歩15分)  
島根県庁前駅東口(徒歩15分)

日本プライマリケア連合学会  
学生研修部会 中国支部  
主催：島根大学医道研究会  
中国地方学生医道連盟

島根大学医学部環境保健医学講座  
後援：島根大学医学部地域医療支援学講座  
島根大学医学部附属病院総合診療センター

### 編集後記

スーパーやくも号の登場により山陰の鉄道は楽しみがますます増えており、とてもうれしい状況である。381系電車の活躍は残り短いが最後まで記録していきたい。なお、この号は試験的に書いたものであり、タイトル等は会員一同で今後決めていきたいと考えている。

### 参考文献

- JR 西日本ホームページ
- 鉄道ジャーナル
- JTB 時刻表
- 山陰中央新報
- 朝日新聞
- 日立評論